

『武雄市図書館を見学して考えよう！』に参加して

9/30(月)、『武雄市図書館を見学して考えよう！』(図書館問題研究会山口支部主催、図書館友の会山口県連絡会共催)に参加しました。山口・広島から22名での武雄市図書館見学会で、図書館を自由見学した後、地元で活動をされている“武雄市図書館・歴史資料館を考える市民の会”代表の井上一夫さんの講話を聞き、市民の会の皆さんと意見交換をするというツアーです。

佐賀県武雄市は古くからある温泉地で、豊かな自然・歴史・文化を有した地です。それを体現する“武雄文化施設群構想”の中核を担うのが、武雄蘭学資料を収蔵する資料館と図書館が一体となった、改修前の『武雄市図書館・歴史資料館』でした。

しかし訪れた図書館は「スタバと図書館が付いたTSUTAYA」としか言えないものでした。

歴史資料館側の外壁はオランダタイル張りで、2億1千万円かけて設えた映像設備もありました。その、蘭学資料を常設展示していた空間に、今は有料レンタルDVDが所狭しと置かれています。

正面入り口から先に広がるのは販売書籍とスターバックスで、図書館はその奥に押しやられているように感じます。それに、事務室を縮小し書庫を無くし書架を高くした事で迷路の様な造りになり、館内表示もわかり難く、目的の資料を探すのが難しい図書館でした。図書館側の説明によると、これは「知を発見して」もらうための排架なのだそうです。

排架で驚いたのは、1階のキャットウォーク真下の書架上部、7段目以上の高さに児童書が延々と置いてある事です。一般エリアで美容やファッションの棚を見上げたら、落下防止バーに押さえられた“二十面相”や“ドリトル先生”のシリーズがあるというのはシュールな光景です。

そして、高所に延々と並べられた児童書が児童エリアにつながり、そのままその高さで絵本が面置きされていました。大人でも手の届かない高さに置かれた絵本は、飾りとしては素敵だと感じますが、書店の様に何冊もの複本を持たない図書館の展示としては落第点と言えるでしょう。

おはなしの部屋はオープンスペースで明るく開放感がありますが、館内に流れている音楽がダイレクトに入ってくるので、ボランティアによるおはなし会はやり難いだろうと感じました。また、幼児が使うスペースなのにトイレから遠いという事に驚きました。ちなみに館内のトイレは一カ所だけですが、改修前は館内にトイレが4ヶ所あり、おはなしの部屋にはトイレと授乳室が併設されていたそうです。

防火扉の前に看板など物が置いてある事にも驚きました。職員には危険だと声をかけましたが、2階キャットウォークが建築基準法施行令第120条で定められた“避難階又は地上に通ずる直通階段”までの30メートルより長いいため一部立ち入り禁止になっている事実や、高所作業（危険作業）が必要な背の高い書架を導入した事、改修で床を張り替えスロープや段差が新たに出来た事で車いすやベビーカーでの館内移動が以前より難しくなった事などから、ここは防災意識が低く人命を軽視した施設なんだと強く感じました。

ところで、売り物の新刊書や雑誌を読む人でスタバは盛況でしたが、武雄市図書館の目と鼻の先には“ゆめタウン”があり、同規模の書店や飲食店がここに入っているのです。武雄市図書館はその立地から、多額の税金を使ってまでカフェや書店を併設する必要は無い施設だと言う事です。市民の会代表・井上さんからは、改修前は持ち込んだ物を飲食出来るエリアがあったので、ゆめタウンでパンなどを買い、子どもでも図書館で一日過ごす事が出来たが、今の図書館ではそれは出来ないという話も聞きました。

今回、武雄市の図書館には改修など必要が無かった事、CCCが図書館の指定管理者としての能力を備えていない事を改めて確信しました。

駆け足での武雄訪問でしたが、本当の図書館を取り戻す事を活動の目標に定めた“武雄市図書館・歴史資料館を考える市民の会”をこれからも応援して行こうと心の底から思った一日でした。